



センターWebページへ

トップ

教職員研修講座

講座紹介・受講者の声

ライブラリ新着情報

#### ハイライト:

「講座紹介」にて今年度注目の講座を紹介！また、「お知らせ」にて盲・聾・養護学校から特別支援学校に変更になって新しくなった点を紹介しています。当センター特別支援教育課のホームページにもリンクしております。クリックしてみてください。

#### 目次:

教職員研修講座の状況	2
今年度注目の講座！	2
講座紹介・受講者の声	3
センター研究成果	3
おしらせ	4
ライブラリ紹介	4

# 青森県総合学校教育センター

センターだより

## 巻頭言 「教育は人づくり」

「センターだより」web版にアクセスしていただきましてありがとうございます。

当センターでは、教職員をはじめ県民の方々にセンターが実施している研修講座の様子、研究の内容や成果等について知っていただき、センターをより身近なものとして活用してもらえよう、平成18年度から「センターだより」web版を発行しています。今年度も、7月、11月、2月の年3回発行する予定です。

記事の内容は、

- ① 研修講座の実施状況や受講者からの感想や意見
- ② 学校教育に関する研究
- ③ 教育相談の状況及び情報
- ④ ライブラリの紹介と教育情報



青森県総合学校教育センター  
所長 田辺 哲彦

各回とも、その時々に応じた内容を提供したいと考えておりますのでご覧になって下さい。

さて、いつの世でも、「人づくり」の要である学校教育に対する国民の期待には大きなものがあります。そして、学校教育における不易のものとして「知・徳・体」の調和のとれた人間の育成が挙げられます。また、学校教育は、それぞれの時代や社会の要請にも対応していく必要があります。しかし、その一方で教育を取り巻く環境や社会の変化は、行政や学校だけで未来を担う子供たちを育てるのにはあまりにも厳しい状況となっていると言っても過言ではないと思います。とりわけ、国の教育についての変化の大きさや早さについて行くこと自体が大変な状況となってきました。

このような中、青森県教育委員会では、「人づくり」の原点に立ち返り、学校教育の指針として「夢はぐくむ教育の推進」を掲げ、その中で「知・徳・体」を「学・心・体」と言い換え、これらの充実の上に立ち、

- ①基礎・基本、考える力を身に付ける
- ②夢をはぐくみ生き方を考える
- ③目標に向かって努力する

の3つを学校が中心となりながら家庭はもちろん地域社会の協力も得ながら重点的に進めることとし、そのための教育施策の充実にも努めているところであり、多くの県民がその成果に期待を寄せています。

そして、その期待に応えるためには、行政の施策の充実はもちろんのこと、とりわけ教育現場で子供たちと日々直接向き合いながら指導している教職員の力量を高めることが極めて重要となってきました。

教職員の皆様方の専門性向上のための各自の取り組みにご期待申し上げます。

当センターは、今後とも教職員の「資質能力の向上」と学校が行う「教育活動の支援」に努めて参ります。特に、これからは、制度の大きな変更に係わる先進的な取り組みや事例等に関する情報提供に努めて参りますので、お問い合わせや、ご相談がございましたらなんなりとお寄せ下さい。

また、センターの事業を一層充実させるためにも、皆さんの忌憚のないご意見やご提言をお寄せいただければ幸いです。

夢はぐくむ教育を推進するために「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」

トップ

教職員研修講座

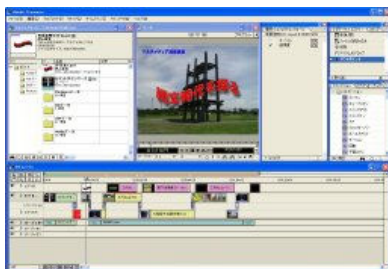
講座紹介・受講者の声

ライブラリ新着情報

## 【注目講座

講座紹介について】

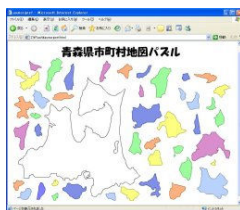
センターの研修を身近に感じてもらい、受講の参考としてもらうために、実際の研修の様子を講座担当者から紹介します。



講座番号814～816動画編集画面



講座番号815音声波形編集画面



講座番号817Webアニメーション教材へリンクしますのでお試しください。

## 平成19年度 教職員研修講座の状況

## 【平成19年度研修講座】

当センターでは、教職員の専門性を高め、教育活動の充実に資するため各種の研修を行っています。研修は、「初任者・新規採用者」「経験者」「職務」「教科」「教科外」「特別」によって組織され、講座数は205となっています。各講座においては、学校の教育課題に対応した魅力ある講座を目標に、講座内容の評価・見直しを図り、受講者のニーズにあった講座構築を目指しています。

## 【追加申込について】

「職務」「教科」「教科外」それぞれの研修において、講座開催1か月前まで追加申込を受け付けています。希望する講座があれば、講座担当者まで、まずは電話連絡をお願いします。当センターのWebページの「追加申込について」も参考にしてください。

## 今年度の注目講座！

講座番号602 不登校・いじめ等対策実技講座 [キレイやすい子の理解と対応]  
—キレイにくい子を育てる ソーシャルスキル教育の理論と実践—

「キレイでトラブルを繰り返す子どもが多くなってきた」と感じていませんか？ そんな子どもたちは、キレル瞬間に「ブチキレた」「プツンした」「マジギレした」と自分の感情を表現し、その後、目線が合わなくなり、何を言っても聞かなくなることがあります。また、表情が凍りついたり、つじつまの合わない言葉をつぶやいたり、叫び声やうなり声をあげたりすることもあります。中には、学校や教室から出て行く、物を壊す、人に殴りかかるなどという行為を示す子もいます。

この講座では、「なぜキレルのか？」そのメカニズムを教師が理解することにより、「キレイにくい」環境作りや「キレた」ときの対応の仕方について学びます。

講師は、発達障害やソーシャルスキルトレーニング、アンガーマネージメント研究の第一人者でもある早稲田大学の本田恵子先生です。

## 講座番号814～817 マルチメディア活用講座

マルチメディア活用講座は、今年度は1講座増やし、年4講座開催となりましたが、主として扱うメディアの違いにより、講座内容が異なります。以下に講座ごとのサブタイトルを紹介します。

814・・・静止画像の加工と動画ノンリニア編集

815・・・音声の加工と動画ノンリニア編集

816・・・動画の加工とノンリニア編集

817・・・Webアニメーションとマルチメディアコンテンツ

このうち、814は6/20～21、815は7/10～11に開催されました。以下に受講者の感想を紹介します。

814：「静止画像処理では様々な手法を知ることができた。特にゴミ・ノイズ処理で電波塔を消す作業が興味深かった。」

815：「音声に関しては教科が英語なので、まずはALTと協力して教科書の基本文や対話文のCDを作成できればと考えています。」

これから開催される、816(9/19～20)、817(12/4～5)は、今年度の受講申込みは定員となり終了しましたが、動画の暗部補正・編集や、Webアニメーションを活用した教材作成の基本について研修する予定です。ビデオ教材のみならず、音声教材、Webアニメーションを活用した教材作成の道も拓けます。あなたも「マルチメディア」を活用してみませんか？

## 【平成19年度研修講座申込状況】(延べ数)

研修区分	講座数	申込者数等
初任者・新規採用者研修	41	1201
経験者研修(5・10年)	16	1335
職務研修	18	863
教科研修	58	975
教科外研修	67	2086
特別研修	5	27
合計	205	6487

講座番号005 小学校 初任者研修学習指導基礎講座 6/14～15開催

今年度小学校教員として新規採用された先生方を対象にして、講義・マイクロティーチングを通して、学習指導に関する基礎的・基本的内容の理解と実践力を高め、指導力の向上を目指すことを目的に行われました。

受講した先生方からは、「授業を組み立てていく時、どのような授業を目指していけばよいのか学んだ。ただ与えたり誘導したりするのではなく、児童が興味を持って追求したいと思い、試行錯誤しながら、『できた』『やった』という満足感を得られるような授業づくりをしなければならなかったことが分かった。」「指導と評価の一体化について多くのことを学んだ。Kaizenを中心に据えたP-D-S-Kのサイクルで一体化を図り、授業づくりをしていくことの大切さを実感した。」「マイクロティーチングをしてみて、児童の立場で授業を受けてみると、発言しにくい発問と発言しやすい発問があることが分かった。児童の反応を具体的に予想して発問を整理しておく必要性を感じた。児童役になりきることで教師の投げかける質問や指示がとても大切であることが分かった。」等の感想が寄せられました。教員として採用されて2ヵ月、学習指導上様々な悩みや課題が生じてくるこの時期の初任者一人一人に、日々の授業実践を振り返りながら授業改善を目指していくための効果的な研修となった2日間でした。

講座番号505 国際理解教育講座 6/19～20開催

この講座は、多様な文化や価値観に共感できる児童生徒の育成を目指し、国際理解教育における教員の指導力向上を目的に毎年開講されています。講師として目白大学教授の多田孝志先生（日本国際理解教育学会会長）をお招きし、ご自身の海外での経験等も交えながら、今後の多文化共生社会において必要とされる「コミュニケーション能力」の育成についてご講義頂きました。また津軽地方の3つの小・中学校における実践発表では、小学校英語の取り組みや国際交流の様子等が紹介され、受講された各校種の先生方も熱心に聴き入っていました。

◆受講者の声

- ・国際理解教育が行われる背景や理由について知ることができ、大変良かった。
- ・「国際理解教育＝英語学習や国際交流」という考えは断片的であり、もっと学ぶべき領域は広範で多岐にわたっているということに気付かされた。

センター研究成果

平成18年度のセンター研究の中から、学校教育で参考となる主な研究について、それぞれ研究の主題及び要旨を紹介します。

◆特別支援教育課

- <主題> LD等のある生徒へのセンターからの支援の在り方に関する研究  
 ー県内県立高等学校へのアンケート調査の結果分析を通してー

<要旨>

LDやADHD、高機能自閉症等の生徒への支援の現状を把握するため、当課における特別支援教育の理解啓発状況の整理と高等学校へのアンケート調査（チェックリストを含む）を行った。調査結果からは、①支援を必要とする生徒への配慮等に負担を感じていながらも特別支援教育に関する関心が高いこと、②高等学校教員が「気になる生徒」として捉える視点は、広汎性発達障害やADHDの特性と重なること等が明らかになった。今後の課題として、高等学校教職員に向けての各種情報の伝え方、対象生徒への教育的支援のための中学校との連携の必要性が示唆された。

◆教育相談課

- <主題> 通常の学級における学習障害の児童の存在とその特性への気付きを高め、適切な支援につなげるための調査法の開発に関する研究  
 ー学習障害調査票簡便版の臨床的妥当性の検討ー

<要旨>

教育相談課では、学習障害（以下LD）の特徴を背景とする児童の学習困難の状態に気付き、認知能力や学習スタイルの特性を的確に把握するために、先行研究「学習障害の判断に必要な心理教育的アセスメントに関する研究」（笹2004）の学習障害調査票をもとに、統計的手法を用い、LDの児童の抽出感度の因子構造を明らかにしながら、質問項目を絞り込み、学級担任が回答しやすい学習障害調査票簡便版（以下簡便版）を作成した。

今年度は、簡便版がLDのアセスメント及び教育診断のために有効であることを、個人内における簡便版の評価と、個別の知能検査（WISC-Ⅲ）の結果を比較検討し、次年度以降本格的に始まる、簡便版の評価を生かした指導法の提案についても、準備を進めていく。

夢はぐくむ教育を推進するために「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」



小学校 初任者研修学習指導基礎講座



国際理解教育講座  
 講師 目白大学教授 多田孝志先生



発表された小学校・中学校の先生方

トップ
教職員研修講座
講座紹介・受講者の声
ライブラリ新着情報

――盲・聾・養護学校と特別支援学校の違いってなあに？――

「盲学校」、「聾学校」、「養護学校（知的障害養護学校、肢体不自由養護学校、病弱養護学校があります）」と「特別支援学校」は基本的には同じ学校ですが、新しい点について簡単に紹介させていただきます。

平成19年4月1日に施行された改正学校教育法において、

- ①児童生徒の障害の重複化に対応した適切な教育を行うため、盲・聾・養護学校を障害種別を超えた特別支援学校に一本化すること。
- ②特別支援学校においては、在籍児童等の教育を行うほか、小中学校等に在籍する障害のある児童生徒等の教育について助言援助に努めること。

が規定されました。これは、平成17年12月8日にとりまとめられた中央教育審議会答申「特別支援教育を推進するための制度の在り方について」の提言を踏まえ、特別支援教育を推進するための規定を法律上に位置づけたものです。

①については、これまでは盲学校であれば視覚障害者、聾学校であれば聴覚障害者が対象ということだったのですが、複数障害に対応することが可能となりました。また、「県の設置条例等において設置根拠を明確化する」、「運用、名称等については設置者の裁量とする」、「当該学校がどの障害種の教育を行うかを明確にする」ことになっています。

青森県では、国立の「弘前大学教育学部附属養護学校」が、「弘前大学教育学部附属特別支援学校」に名称変更を行いました。また、県立の学校は従来の養護学校という名称がしばらく続きそうです。また、複数障害への対応という面では、今年度から県立青森第一高等養護学校が、知的障害と肢体不自由に対応した学校となりました。

②については、「特別支援学校のセンターとしての機能を法に位置づける」、「小・中学校等への支援については、可能な限り全ての学校で取り組む」ことになっています。

特別支援教育の充実を図るためには、今後ますます特別支援学校が重要な役割を果たすこととなります。

ライブラリ紹介

――新着情報――

今年度第1次購入分の新着図書の一部をご紹介します。各分野の最新情報やすぐに役立つマニュアル等、ここで紹介した以外にもたくさんの新着図書がありますので、どうぞご利用ください。また、センターで所有する（主に平成18年度の）各教育センター・研究機関・大学等の研究紀要等のリストを、センターwebページ「お知らせ／図書・ソフトウェアライブラリ」内に掲載しておりますので、こちらもあわせてご利用ください。

書名	編著者	発行・出版社
種かな力をはぐくむ学校力「学校再生」の方略と具体的方策	児島邦志	ぎょうせい
ハンドブック 字が難歌を画める100の方法	小島淑	教育出版
パフォーマンス・マネジメント問題解決のための行動分析学-	島宗理	米田出版
青森県日記百年史	編 武田三作	東風日報社
KHACHO旬レシビ 青森の四季を料理する	熊谷喜八	ヴォレックス
誰でも分かる著作権	岡本麗	全日本社会教育連合会
教師のためのICT活用キタウ選 -検査が変わる！授業が変わる！(小学校編)-	園田厚志	明治図書出版
ICT活用で中学校の授業が変わる！ -総合的な学力向上を目指すICT活用実践-	豊田充崇	画陵社書店
教室でできる特別支援教育のアイデア172 小学校編	編 月森久江	図書文化社
自立をめざす生徒の学習・メンタル・進路指導 -中学・高校におけるLD・ADHD・高機能自閉症等の指導-	編著 柄植雅雄 秋田喜代美 ほか	東洋館出版社
見てわかる困り感に寄り添う支援の実践 -通常の学級に学ぶLD・ADHD・アスペの子どもへの手立て	佐藤暁	学習研究社
困難行動の床にあるもの 子どもの不安とその克服	阪井茂男	教育出版

編集後記

昨年からスタートした「センターだよりWeb版」も2年目を迎え、これからが真価を問われることになると思われます。人事異動により、今年度は広報委員会のメンバーが大幅に替わりました。新しいメンバーによって仕事を行うのは不安もありますが、逆に新鮮さもあります。新鮮な目で物事を見ることで、それまで気づかなかった何かを発見することもあります。情報発信には鮮度が重要な要素になります。今年度、3回（7、11、2月）の発行を計画しておりますが、鮮度の高い情報を提供できるように頑張りたいと思います。

夢はぐくむ教育を推進するために「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」

トップ

教職員研修講座

講座紹介・受講者の声

ライブラリ新着情報



青森県総合学校教育センター  
特別支援教育課のサイトへ  
<http://www.edu-c.pref.aomori.jp/tokushi/>



授業情報システムについて  
たくさんの先生方が実践された授業の情報が満載です。是非ご覧ください！